

プラナルカスト錠 112.5mg 「AFP」 プラナルカスト錠 225mg 「AFP」

【この薬は？】

販売名	プラナルカスト錠 112.5mg 「AFP」 PRANLUKAST Tablets 112.5mg 「AFP」	プラナルカスト錠 225mg 「AFP」 PRANLUKAST Tablets 225mg 「AFP」
一般名	プラナルカスト水和物 Pranlukast Hydrate	
含有量 (1 錠中)	112.5mg	225mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、アレルギー用剤の中のロイコトリエン受容体拮抗剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、気道・鼻粘膜の炎症や気道を収縮させる物質の働きを抑えて、気管支喘息やアレルギー性鼻炎の諸症状を改善します。
- ・次の病気の人に処方されます。

気管支喘息

アレルギー性鼻炎

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要

です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

・過去にプラシルカスト錠に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人。

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

販売名	プラシルカスト錠 112.5mg「AFP」	プラシルカスト錠 225mg「AFP」
一回量	2錠	1錠
飲む回数	1日2回（朝食および夕食後）	

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬は、気管支拡張剤やステロイド剤とは異なり、喘息の発作を速やかに鎮める薬ではありません。患者さんまたは家族の方は、正しい使用方法について十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ・この薬を含めロイコトリエン拮抗剤使用時に Churg-Strauss 症候群様の血管炎がおこることがあります。この症状は、この薬を使用中にステロイド治療を減量・中止した場合におこることが多いので、しびれ、四肢脱力、発熱、関節痛などの症状があらわれたら、医師に相談してください。
- ・他のロイコトリエン拮抗剤を使用中に、関連性は明らかではありませんが、抑うつ気分になったり、死んでしまいたいと感じる、攻撃的になるなどの症状があらわれたとの報告があります。この様な症状があらわれた場合は、医師に相談してください。
- ・妊娠中または妊娠の可能性がある人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック ショック	めまい、頭痛、立ちくらみ
アナフィラキシー 様症状 アナフィラキシーようしょうじょう	しゃがれ声、眼と口唇のまわりのはれ、じんましん、判断力の低下、動悸（どうき）、息切れ、息苦しい、からだがだるい、考えがまとまらない、ほてり、意識の低下、ふらつき
白血球減少 はっけつきゅうげんしょう	のどの痛み、発熱、からだがだるい
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	歯ぐきの出血、出血しやすい、あおあざができる
肝機能障害 かんきのうしょうがい	皮膚が黄色くなる、吐き気、嘔吐（おうと）、白目が黄色くなる、尿が黄色い、食欲不振、かゆみ、からだがだるい
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	頭痛、息苦しい、発熱、から咳
好酸球性肺炎 こうさんきゅうせいはいえん	から咳、息切れ、発熱
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、赤褐色尿

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用の表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、からだがだるい、ふらつき、脱力感、立ちくらみ
頭部	頭痛、めまい、意識の低下、考えがまとまらない
顔面	ほてり
眼	眼と口唇のまわりのはれ、白目が黄色くなる
口や喉	から咳、しゃがれ声、のどの痛み、眼と口唇のまわりのはれ、歯ぐきの出血、吐き気、嘔吐（おうと）
胸部	息苦しい、息切れ、吐き気、動悸（どうき）
腹部	食欲不振、吐き気
手・足	手足のこわばり、手足のしびれ
皮膚	あおあざができる、かゆみ、じんましん、皮膚が黄色くなる
筋肉	筋肉の痛み
尿	赤褐色尿、尿が黄色い
その他	出血しやすい、判断力の低下

【この薬の形は？】

販売名	プラシルカスト錠 112.5mg 「AFP」	プラシルカスト錠 225mg 「AFP」
PTP シート		
形状	円形の素錠   	円形の割線入り素錠   
直径	7.5mm	9.5mm
厚さ	2.7mm	3.3mm
重さ	150mg	300mg
色	白色～淡黄色	白色～淡黄色
識別コード	NF171	NF172

【この薬に含まれているのは？】

販売名	プラシルカスト錠 112.5mg 「AFP」	プラシルカスト錠 225mg 「AFP」
有効成分	プラシルカスト水和物	
添加物	乳糖水和物、デキストリン、ヒドロキシプロピルセルロース、結晶セルロース、タルク、ステアリン酸マグネシウム	

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：アルフレッサ ファーマ株式会社

(<http://www.alfresa-pharma.co.jp>)

学術情報部 お客様相談室

電話番号：0120-060334

受付時間：9時～17時

(土、日、祝日、その他当社の休業日を除く)